

教科	芸術	科目	音楽 I	単位数	2
学年	1年	教科書	高校生の音楽 1 (教育芸術社)		
学科	全学科	副教材	なし		

学習目標	① 音楽の基本的な知識を身に付け、様々なジャンルの音楽に関心を持ち、それぞれの曲の面白さや美しさを感じ取り表現する。
	② 音楽の背景となる歴史や文化に興味を持ち、楽曲に対するイメージをもって音楽を表現する楽しさを知る。
	③ アンサンブルや合唱などの活動に主体的に取り組み、仲間と協力し合う姿勢や、相手を思いやる心を育む。

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>独唱曲 校歌、日本歌曲、ドイツリート、イタリア歌曲</li> <li>合唱曲 二部合唱、混声三部合唱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌うことの楽しさを感じ、積極的に表現活動に取り組む。</li> <li>詩の内容を理解し、音楽の構成や曲想との関係を感じながら歌唱表現する。</li> <li>合唱の楽しさを知り、互いに協調し合って音楽を作り上げる。</li> <li>各パートの特徴や役割を理解して表現の工夫をする。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>西洋音楽史と鑑賞</li> <li>器楽曲 (リコーダー)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽曲の文化的・歴史的背景や、各時代における音楽の様式の特徴を理解して音楽を鑑賞する。</li> <li>楽曲の構成や音楽の要素を理解し、その良さを味わう。</li> <li>リコーダーの基本的な奏法を習得する。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンサンブル (リコーダー)</li> <li>日本の伝統音楽</li> <li>世界の民族音楽</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いに協力し合って、調和の取れたアンサンブル活動を行う。</li> <li>日本の伝統音楽や民謡に触れ、日本の文化に対する理解を深める。</li> <li>様々な国や地域の音楽に興味関心を持ち、理解を深める。</li> <li>芸術における価値観の多様性を理解する。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学期ごとにレポートを提出する。</li> <li>②リコーダなどの実技に関しては、活動記録表を毎時間提出する。</li> <li>③長期休業中には課題レポートに取り組み、家庭やコンサートなどで様々な音楽を聴くなど、積極的に音楽に親しむ。</li> </ul>	

評価の観点	趣 旨
I 音楽への関心・意欲・態度	音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。
II 音楽表現の創意工夫	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、表現の意図をもって音楽表現の工夫をしている。
III 音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表現している。
IV 鑑賞の能力	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わおうとしている。
評価方法	①実技試験、②小テスト、③提出物、④学習状況・意欲・態度 以上をもとに総合的に評価する。(100点法)

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	単位数	2
学年	3年	教科書	高校音楽Ⅱ 改訂版 Music View (教育出版)		
学科	全学科	副教材	MUSIC NOTE 基礎から学ぶ高校音楽 (啓隆社)		

学習目標	①音楽のよさや美しさを感じ取り、その価値を見出せる感性を高め、生涯にわたり音楽を愛好する心情を高める。
	②音楽の諸活動を通して、生徒一人一人の個性豊かな表現と主体的な鑑賞の能力を伸ばす。
	③我が国や郷土の伝統音楽に関心をもたせ、文化的・歴史的背景など広い視野で音楽を捉えることで、音楽文化の理解を一層深める。

学期	単元	学習内容・学習のねらい
1	1 音楽Ⅱの学習について	・音楽Ⅱの学習目標や1年間の学習計画を確認して、学習意欲を養う。
	2 歌唱表現の工夫	・多様な歌唱曲に親しみ、歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせ、曲想を理解して歌う。
	3 ソルフエージュと作曲	・ソルフエージュを学び、音階の特徴を生かした旋律で、自己のイメージをもって創作する。
2	4 郷土の音楽	・郷土の音楽の旋律や、声・楽器の特徴、それらの文化的・歴史的背景に関心を持つ。
	5 諸外国の芸術歌曲と日本歌曲	・イタリア語、ドイツ語、フランス語の特性を味わい、日本歌曲と比較して個性豊かに歌う。
	6 舞台芸術の世界	・オペラ・ミュージカルの特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、曲の背景や作曲家に理解を深めて鑑賞し、作品のよさや価値を考える。
3	7 和楽器の響きと日本音楽	・文楽や能、歌舞伎の特徴を理解し、それらの文化的・歴史的背景に関心をもって鑑賞する。
	8 合唱の喜び	・クラス全体での合唱やアンサンブル活動を通して、音楽活動の喜びや楽しさを味わう。
	9 音楽Ⅱのまとめ	・1年間の学習のまとめとして音楽会を企画し、音楽を愛好する心情を高める。
課題	①学期ごとにレポートを提出する。 ②器楽などの実技に関しては、活動記録表を毎時間提出する。 ③長期休業中には、課題レポートに取り組み、家庭やコンサートなどで様々な音楽を聴くなど、積極的に音楽に親しむ。	

評価の観点	趣 旨
I 音楽への関心・意欲・態度	・様々な楽曲やその表現形態にも関心を持ち、音楽の背景に関心を持ちながら、様々な活動に対して主体的に取り組もうとしている。
II 音楽表現の創意工夫	・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じしながら音楽表現を工夫し、個性豊かな表現意図をもっている。
III 音楽表現の技能	・楽曲の特徴や曲想を感じ取り、イメージをもって音楽表現をするために必要な技能を身に付け、個性豊かに表現している。
IV 鑑賞の能力	・楽曲の文化的・歴史的背景や作曲者の思いを理解し、広い視野で音楽を捉え、音楽のよさや美しさを主体的に味わって聴いている。
評価方法	① 四つの評価の観点の達成度を「実技テスト・レポート・学年末考査」「授業への取組」「記録表やノートの提出状況」「出席状況」等をもとに総合的に評価する。(100点法) ② 評価の内訳は「実技テスト・レポート・学年末考査」「授業への取組」を70%程度、「記録表やノートの提出状況」「出席状況」を合わせて30%程度を目安として評価する。

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	2
学年	第1学年	教科書	高校美術1（日本文教出版）		
学科	全学科	副教材			

学習目標	①造形感覚や技能を身に付けさせる。
	②美術活動を通して、美術を愛好する心情を育てる。
	③鑑賞能力を高め、芸術文化について理解を深める。

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 鑑賞	・幅広い美術の領域、分野を理解し、味わう
	2 絵画	・スケッチ、鉛筆デッサン、モダンテクニック
	3 デザイン	・文字のレタリングとタイポグラフィ
2	4 映像メディア表現	・写真表現の特質を理解する
	5 絵画・立体	・視覚のトリックを生かした絵画、立体制作
	6 デザイン	・学科の特性を生かしたパッケージデザイン
3	7 絵画	・油彩による抽象表現
	8 彫刻	・粘土を用いた造形表現
課題	① 予習・復習…アイデアスケッチを行う ② 夏休みの課題…ポスターの制作 ③ 冬休みの課題…鑑賞レポート	

評価の観点		趣 旨
I	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心・意欲をもち、授業に取り組んでいるか。</li> <li>・主題の意義を理解し、表現することに関心を持っているか。</li> </ul>
II	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に主題を発想しているか。</li> <li>・構図や画面配置などの構想を練っているか。</li> </ul>
III	技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具等の使い方を工夫し、表現に生かそうとしているか。</li> </ul>
IV	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現した作品を鑑賞し、そのよさを理解しているか。</li> </ul>
評価方法	① 四つの評価の観点の達成度を、制作した作品及び制作中の作品から見取り、総合的に評価する。(100点法) ② 評価の内訳は、制作した作品を70%程度、制作活動・態度を30%程度、を目安とする。	

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	2
学年	第3学年	教科書	高校美術2（日本文教出版）		
学科	全学科	副教材			

学習目標	①造形感覚や技能を身に付けさせる。
	②美術活動を通して、美術を愛好する心情を育てる。
	③個性豊かな表現と鑑賞能力を高め、芸術文化について理解を深める。

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 絵画	・細密描写
	2 絵画	・版画の表現
2	3 彫刻	・石膏の立体造形
	4 映像メディア表現	・写真の表現
3	5 デザイン	・プロダクトデザイン
	6 鑑賞	・日本美術、西洋美術、近代美術
課題	① 予習・復習…アイデアスケッチを行う ② 夏休みの課題…各種公募展ポスターの制作 ③ 冬休みの課題…鑑賞レポート	

評価の観点		趣 旨
I	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心・意欲をもち、授業に取り組んでいるか。</li> <li>・主題の意義を理解し、表現することに関心を持っているか。</li> </ul>
II	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に主題を発想しているか。</li> <li>・創造的で心豊かな表現の構想を練っているか。</li> </ul>
III	技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具等の使い方を工夫し、表現に生かそうとしているか。</li> </ul>
IV	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現した作品を鑑賞し、そのよさを理解しているか。</li> </ul>
評価方法	① 四つの評価の観点の達成度を、制作した作品及び制作中の作品から見取り、総合的に評価する。(100点法) ② 評価の内訳は、制作した作品を70%程度、制作活動・態度を30%程度、を目安とする。	